

洋書輸入協会会報

VOL. 11
NO. 9

(通巻 125 号) 昭和52年 9 月

理 事 会 報 告

7 月 26 日 (火)

- (一) 新会員募集にともなう問題について総務委員会から報告あり。
- (二) 7 月 19 日 福田忠氏 (丸善)、相良広明氏 (紀伊國屋書

店)、鈴木常夫氏 (三洋出版貿易)、栗原光輝 (洋販) 四氏が公正取引委員会取引部長を訪問、懇談したことについて報告あり。可能であれば、秋にでも取引部長を招いて、講演会をひらくこととなった。

(三) その他

K. 593 をめぐる 眞 贋 問 答 (その二)

中 野 吉 郎

T 兄

昨日、〈新 Mozart 全集〉第 8 巻を見ました。

—— 乾杯!! 小生の推理もなかなかいい線を行っています。少し違ったのは、眞贋 2 つの楽譜が残っているのではなく、唯一の自筆原稿のうえに、(校訂者 Ernst Hess 氏に言わせれば)「全くぶざまな、粗野な筆蹟で、何者かの手によって書きこみがなされている」という点でした。つまり誰が K. 593 を書き変えたか、ではなくて誰が眞の K. 593 に贋のパッセージを書きこんだか、が問題だったわけです。ますます犯人 Tost 説が有力になったと思ったのですが、Hess 氏は「出版のバトロンは確かに J. Tost であるが、書き変えの犯人は全く解らない」と記しています。

さらに続けて「ハンガリーのアマチュアのためにとあるが、作品にはハンガリーを考慮したところが全然なく、すべては Mozart の後期の様式で、ギャラントと学識ある作風が完全にひとつに融合された作品である。それが約 30 小節、この楽章のおよそ一割に及ぶ部分に手が入られ、その相貌は一変してしまったのである。E.F.Schmid

は、この巧妙な書変えについて、作曲者自身が弟子か、友人かに命じてやらせたものに違いない、と言っているが、1961 年の研究によって (Mozart-Jahrbuch 1960/1961) この改作は Mozart の意志に発するものでない (nicht stammen) ことが証明されたので、本全集から削除したのである」というのです。

写真を見ると、書き変えの筆蹟は Mozart ほどには綺麗ではありませんが、なかなかの達筆です。ただあまりに無惨に、半音階の部分が消しているところが、Mozart を愛する研究者 Hess 氏の深い憤りを買ったのでしょうか、解説文の全体からその怒りが感じられます。小生の書きこみ犯人 Tost 説も、Hess 氏をはじめ、名だたる世界の Mozart 研究者たちが推測すらしていないところを見ると、何か決定的な反証でもあるのかも知れません。Tost の他の遺品と筆蹟をつき合せると同じであるという証明でない限り、また何故 Tost が書きこみをした楽譜が再び 1800 年に Mozart 未亡人の手もとにあったかが証明できない限りこの仮説は推測の域は出られないでしょう。

—— 結局、私たちが最近の音楽学に無知であったため、

理事会報告…………… 1	Book Review No.45 …… 4	来日外人名簿…………… 6
K. 593 をめぐる眞贋問答…………… 1 (その二)	外国出版社の紹介 No.52…………… 4	通関統計…………… 6
本の本 No. 5 …… 3	国際電話による 自動発注システムの実験公開… 5	総代理店ご案内…………… 7
会員紹介…………… 3	海外ニュース…………… 6	おしらせ…………… 7
		広告 医学書院…………… 8

文字どおりのジグザグコースで、2世紀に及ぶMozart研究のごく一部を、2週間で辿って来たことになりました。これ以上、小生が独りでつつこんだ調査をするほどの自信も元氣もありませんから、この問答は、これで終りにしたいところですが、犯人Tost説に未練があるというようなこととは全然違う、ある不思議な余韻が、いまでも私の中に尾を引いています。

まず第一に、このようなことがまだほかにもあるのか、われわれが知らないだけではないかという不安です。

近年、BachやBeethoven、Schubertなどの作品研究の素晴らしい成果をもとに、〈原典版楽譜〉を続々出版しているところに〈Henle出版社〉があります。その社史ともいべき〈25 Jahre G. Henle Musikverlag〉(1973年)には社主G. HenleがSerkin、Fischer、Menuhin、Casalsといった大演奏家との交遊と合奏(!)の中で、市販の楽譜の間違いを発見する過程が書かれています。それはクロイツェル・ソナタのFisがFisisであったり、ハンマークラヴィア・ソナタのAがAisであったり、もう枚挙に暇がない程沢山あるのです。今年78才になった筈のG. Henle氏は元外交官で政治家で、鉄鋼関係の大コンツェルンを統率する事業家で、ピアノとヴァイオリンを奏き、何回もステージで活躍したという人物です。(それにしてもこの社史、出版物の目録もなければ、事業経営の数字も、まして重役の名などどこにも載っていない社史です。驚きました)

また、これはHenleの指摘ではありませんが、Mozartの〈弦楽4重奏曲ニ短調K.421〉の終楽章の59小節目の最後の音が、一般に流布されているPeters版ではAと印刷しており、〈新Mozart全集〉ではCになっているところがあります。加線が一本足されているのです。これは小生がアマチュア仲間と演奏して遊んでいる時に発見したのですが、その時第1ヴァイオリンを奏いていた芸大出のHさんは即座に、Peters版のAの方が自然だと言って、Cを奏きませんでした。その方がもう耳に馴染んでいるのです。レコードではAmadeusがPetersのAで、昔のBarilliですらCを奏いています。Barilliは〈新Mozart全集〉以前の録音ですから、その頃からPeters版以外にはなかった印刷ミスなのでしょう。疑問の余地のないもので、〈新Mozart全集〉には特に注記もつけておりません。

G. Henleの指摘する沢山の間違いも、その楽曲の全体に致命的な影響を与えるほどの大きなミスではありませんし、この場合も、CでもAでも、そう大した違いを感じない程度のものですが、間違った音が耳に馴染み、馴染んだ方が正しいと感じてしまう、この習慣の恐ろしさ、出版物の影響の大きさが、いま小生の感じている第2の

余韻です。

180年の後にやっと本来の姿を取り戻した新しい(?)K.593には、小生も漸く馴れて来ましたが、この怒りとも、悲しみとも、落胆ともつかぬ気持は、この夏の2週間の不思議な心的体験でした——そう、もし、すこし突飛なたたえが許されるなら、よくテレビのメロドラマにあるやつですが、産院で赤ちゃんを取り違えられたことを、或る日突然囁やかれた父親の心境もこんなものなのでしょうか——

〈ひとつの音楽作品に盛られた音楽的表現〉という言い方も一寸妙な言い方ですが、少なくとも、①作曲家が頭の中に響いた音 ②楽譜に書きのこした音 ③楽譜から演奏家が受取って出そうとした音 ④実際に出した音 ⑤演奏家が出した音から、ききてが選り出して聴いた音 ⑥ききてが持っている感受性と結合して再構成され、記憶の中にとどまった音——この6種類ほどのものが、ひとつの楽譜や、ひとつのレコードを媒体として関わっていると思います。

楽譜は音楽ではないのだし、あまりにオリジナル、オリジナルと重箱の隅をつつくような考証趣味は嫌いです。〈物〉として存在する②だけが、価値ある〈オリジナル〉ではなく、②の発見から始って、①まで遡ることこそ、作品の真の〈考証〉というものでありましょう。

しかし、いずれにせよ、われわれ音楽の従順な享受者としては、何とか⑥と①とが一致したいと思うのが、心からの願いなのですから、K.593のような事態は一日も早く解消してほしいと思います。そして理由のない沢山の間違いを、そのまま改版もせず、大量に生産しつづけている一般向きの楽譜やレコード(演奏家も含めて)など、その責任と罪の大きさを自覚してもらいたいものです。せめて何年かに1回でも、自社出版物の正誤表ぐらいは印刷配布したらどうでしょうか。レコードの解説も、情緒纏綿だの、流麗無比だのという、珍らしい沢山の形容詞を教えてくれる代りに、このような知識やデータをこそ教えてもらいたいものです。ひるがえって、もしこのような音楽作品の間違い演奏を、なんの断わりもなしに電波に流しているようなことがあれば、小生の住む放送界も大いに自戒しなければならないでしょう。さらにわが身をかえりみて、小生自身の訳書の中にも、あとで気づいた誤りがいくつかあり、まだ訂正できず、気になっているのですが……

長々と小生の駄弁につきあって下さって有難うございました。では、また。よい夏を過されますように。

追伸 こんなことを書いてしまって、出版関係の業界誌が果して掲載してくれるのかどうか……私にはわかりません。(NHK勤務)

A History of European Printing. By Colin Clair

1976. London & New York. Academic Press

Medium 8vo, ix, 526 pp. with illus. £ 12.80

八 木 佐 吉

この挿絵の豊富な本はグーテンベルクの時代の15世紀から今日までの活字による印刷の詳細な史実を綴る。著者はヨーロッパ諸国それぞれの印刷技術の発達を述べ、各々の有名印刷人と主たる技術の改良に就いて出来るだけ詳しく年代順に記述している。特に15～16世紀初期印刷技術の困難な時期のことに特別の注意を払って書き、初期の難かしさを乗り越えた技術(知識)の伝播の速さを述べている。この書物の著者Colin Clairは世界的に著名な印刷史家で、すでに印刷史を多方面から調べた多くの著書論文がある。"プランタン(Platin)の生涯" "イギリスの印刷史" などである。紹介する本は一卷本としての可能な分量での広範な参考事項を許す限りいれ、また、書誌学的分野も最近の文献をも掲載している親切さである。印刷術と印刷史の多くの知識参考を与えと思う。

わが国の印刷にたずさわる人々、書誌学者、図書館関係者等にヨーロッパに於ける活版印刷についての最も確かな史実と実際を単冊で極めて纏よく読ませて

くれる最も有要な書物であろう。

ある問題や事項が広汎多岐にわたっていて、しかも関係資料が豊富にのこっているような事柄を要領よく、かつ簡潔適切に表現し、纏めて一部の著述を編むということは、まことに容易な仕事ではない。かえって大部の書物をなす方が、むしろたやすいことであろう。単冊・中編でしかも、よく要を尽くし、読む者をして、その道に通じさせ得る書物を編むことはよくその事柄に精通し、該博の知識をもつ著者でなければ叶はぬことである。本書はこうした観点からみて、正に賞賛するに相応しい本である。

ヨーロッパに於ける活版印刷の歴史は、中国やわが国の全般的印刷史からみればまことに短い。僅々五世紀余である。しかし、それが、ヨーロッパのみならず、世界的に影響したことは量り知れない大きな文明史である。

会 員 紹 介

自然科学・工学専門書の取扱い

理工学書の需要傾向の推移は激しい。文学どおり躍動する自然科学の展開に、それが極端に受身的な立場であっても順応し、対応して行くことは大変なことだが、これがこの会社の仕事である。高分子を先端とする石油化学関係書に始まり、染料・顔料、医薬・農薬等の化学書、電気・電子、機械、材料、建築・土木等の工学書、原子力から基礎研究、コンピューター、数学、物理学、そして、これからライフサイエンスへと取扱い分野は変化し、拡大する。小規模な洋書取扱店としてはその対応に極端な限度を認めざるを得ないも

三 晃 図 書 貿 易 株 式 会 社

大 阪 市 北 区 絹 笠 町 16 大 江 ビ ル

☎ 06-362-6879

の、可能な限り、そしてそれが唯一のセールスポイントである完全サービスをめざし、専門店の存在価値を維持して行きたいと努力しているとのことである。

将来の課題としては、単に輸入にとどまらず、自国の優秀な研究者の成果が今より容易に海外に発表出来る機会の実現を計り度い。輸出過剰をせめられている昨今、図書については余りにも不均衡に過ぎる。横を縦にすることの意義も充分あるが、より困難な縦を横にする努力を洋書取扱業者の責務として考えねばならないと思うというのが、この会社の考えである。

長谷川 吉 著：

再販売価格維持制度

昭和44年8月20日 第一刷発行 1,800円

発行所：社団法人 商事法務研究会

従来、洋書輸入業界は、再販売価格維持制度とはかわりなく動いていたが、昨今の情勢の変化によって洋書の業界でもこの制度が必要なのではないか、少くとも総代理店権を持っている所はこの制度をもっと研究すべきであるという機運が出てきた。

しかし再販維持制度に関する研究書は少なく、この本が現在もお基本的な解説書の役割を担っている。今回の独禁法改正においても、再販維持に関してはほとんど手を加えられていない所から、各国の現況についてこそ改訂が必要だが、日本のそれについてはこの

本でそのまま立法の趣旨が理解出来る。

筆者は前公正取引委員会事務局取引課長で、執筆当時は経済企画庁官房調査官であったが、現在は公正取引委員会取引部長で、再販維持制度の権威である。

ただし残念ながら、発行所在庫がなくなりかけている由。

(類書)——中村富士郎著：再販売価格

「維持制度の理論と実務」

商事法務研究会発行 2,200円

(H.S記)

外国出版社の紹介 No.52

Taylor & Francis

——その歴史と活動——

ロンドンの新聞、出版社街としてその名も高いフリート通りの北側には、18世紀の建造遺物が今もお古色蒼然と立ち並んでいるのが見えます。Red Lion Court と呼ばれるその一角にある小さなビルディングに、つい数年前まで有名なランプの紋章と「R.Taylor, Printer」という古めかしい看板がさがっていて、道行く人々の眼をひいたものです。

「R.Taylor...」すなわち、現在の Taylor & Francis 社の創立者のひとり、Richard Taylor(1781-1858)が街角のその小さな建物で印刷業、兼、出版業を開いたのは、今からおよそ150年も以前のことでした。

Richard Taylor が初めて手がけた出版物が、今や世界屈指の物理学誌として知られている The Philosophical Magazine だったのです。Richard Taylor は 1798 年の創刊以来発行人として活躍、1822 年から 1858 年までは更に編集者のひとりとしてこの雑誌の発展に貢献しました。

もう一人の創立者、William Francis 博士と Richard Taylor との出会いも他ならぬ The Philosophical

Magazine を介してのことでした。William Francis 博士はロンドン・ベルリン・ギーゼンの各大学で化学を修めた後、1851 年からこの雑誌の編集者に加わっています。

以上の通り、The Philosophical Magazine は Taylor & Francis 社の歴史そのものであり、物理学は Taylor & Francis 社のオリジナル分野といえます。しかし創立以来、出版物の内容と印刷技術の水準の高さは歴代の科学者から高い評価を受け、出版活動の飛躍的成長と相俟って優れた編集及び技術スタッフの増大をみることになりました。その結果、単に物理学のみならず、生命科学、科学史、工学、数学、教育などの広範な分野に亘って、次々と新しい雑誌、単行本、モノグラフ、シンポジウムの会議録の刊行に着手し、主に自然科学全般に亘って大きな貢献をするにいたりました。

「R.Taylor, Printer」も今や 6 社からなる Taylor & Francis Group に成長し、ロンドン、ページングストーク、ウィンチェスター、ボルトンの各地で、活発な出版、印刷活動を行なっています。(S)

国際電話による自動発注システムの実験公開

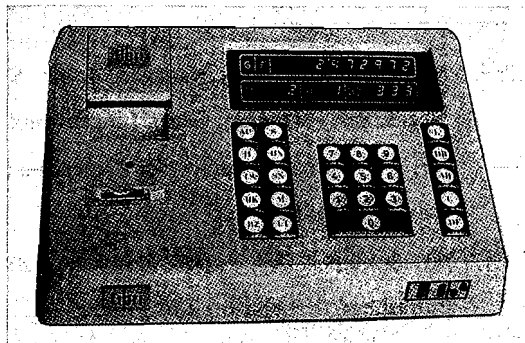
煮えかえるような暑気に包まれた8月初めの東京の街に、ハムブルグから二人のドイツ人が、鞆に入るような小さなマイクロ・コンピューターを抱えてやってきた。一人は、すでに数回の来日で我々にも顔なじみの Libri 社の M. Bauml 氏、もう一人は同社のコンピューター部門を担当する Nerger 氏である。二人の今回の来日の目的は、L 社が開発し、ドイツ国内に於てはすでに実用化されている電話回線とコンピューターを結びつけた発注作業の自動化を、海外の輸入業者にも将来採用してもらうためのデモンストレーションである。

8月1日、上智大学内のモール神父の事務室に招かれた我々は、東京とハムブルグを瞬時に結ぶこの新しいシステムによる発注作業を眼の前に見ることが出来た。机の上に置かれた巾30cm程の、やや大型の電卓なみの機械がこのシステムの中核をなすマイクロ・プロセッサーである。これは電話回線によってドイツのL社のコンピューターに注文その他のデータをインプットする、一種の端末機と思えばよいのであろう。このプロセッサーにISBN或は Libriコード番号による図書番号と、その注文数量、発注側のレファレンスNo.、その他のデータを記憶させ、いざ発注という時は、通常の国際電話と同様の操作で（実験に使用されたモール神父の事務室の電話は、ダイヤルで即時国際通話が可能なものであった）ドイツ側のコンピューターを呼び出し、先方の受入態勢OKのクリック音を待って、ボタンを押せば、後はプロセッサーに入れてある緒データが一分間に約240点分（Libri No.の場合）のスピードで送られる。このデータを受け入れたコンピューターは、コード番号のみではなく、著者名書名を入れたインヴォイスを自動的に作成し、それによって取次

店側の在庫集荷、又は出版社への注文伝達が行われる。（このシステムはL社への注文のみでなく、我々が直接出版社に発注したい場合も、ドイツ国内でのコンピューター網によりそれを処理することが可能である）。

以上が馴れた手さばきでこの「魔法の箱」のキーを操作しながら Nerger 氏が説明してくれたことの概略である。ドイツ国内でも、このシステムの導入にあたっては、コードNo.による発注等の点で、馴れない書店側からは相当の抵抗があったようである。しかし、導入した書店では店の業務が終ったあと、その日の取次店への発注を、この端末機にインプットし、電話で自動発注しておけば、翌日中に注文分は配送されるという格段の省力化とスピード化がなされているとのこと。国内では手書きによる伝票等の発注が従来の方だったろうから、その達筆に悩まされていた取次側としては、書店以上のメリットがあることと思われる。

さて、海外輸入業者である我々の立場から考えると、省力化と（国際電話料金を勘案しても）経費節減につながることはたしかであるが、発注が数分間で終ったにしても輸送に50日を要する現状では、スピード化のメリットは期待できないし、これに伴う発注処理作業の切替えその他幾つかのデメリットも考慮しなければならない。システム導入が、取次店への我々の一方的なサービスにならぬか否かを検討する必要がある。この点については、日本の業界に精通した Bauml 氏も心得たもので、「決して今すぐに、というつもりはない。従来通りの発注方法でも少しも差し支えはないが、将来のコンピューター化への大勢を考えて、各社が検討してもらえればと思い今回の実験公開にふみ切った。」とのことであった。（K.S.）



海外ニュース

「米 国 雑 誌 の 価 格」

ライブラリー・ジャーナル誌7月号に発表された統計によれば、1977年のアメリカの定期刊行物3,218点の年間購読料の平均は、\$24.59であった。1976年の平均は\$22.52であったから、この1年間で9.2%の値上りである。アメリカの雑誌の価格は毎年着実に上昇しているが、値上り率が1桁台におさまったのは、1970年以降では1974年の9%というのが1回あっただけで、他の年はいずれも12%以上22%までの上昇率を示している。

学術雑誌、専門誌を数多く出している主要出版社12社の雑誌(314点)の平均価格は、\$66.44で、これも前年の\$60.75から9.4%上昇している。

この値上げ幅は、出版社や分野によってかなり大きな差異がある。例えば、出版社ではMarcell Dekker社の22.9%が最高で、次いでPlenum社の19.4%、Univ of Chicago Pr.の15.6%などが大きく、逆に値上げ幅の少ないのはAmer. Mathematical Soc.の0%、Amer. Chemical Soc.の2.0%などである。

分野別では、社会学・人類学の15%が最高で、文学・語学の1.9%が最低である。

(Library Journal 7月号より)

「英 国 書 籍 の 平 均 単 価」

ザ・ブックセラー誌が発表した統計によれば、1977年前半期(1～6月)に1,561社から出版された16,598点の英国書籍(政府刊行物435点を除く)の平均価格は£6.64であった。このうち、新刊は12,399点で平均£6.71、重版は4,199点で£6.41である。

前期(1976年7～12月)および前年同期(1976年1～6月)の数字は下記の通りである。これによれば、過去6ヵ月間で新刊書は7.2%の値上り、重版は逆に8.2%の値下りで、全体ではわずか3.2%の値上りとなっている。クロス装の小説だけをとってみれば、この期間に928点出版され、平均単価は£3.49である。これは前期の946点、£3.42と比較してたった2%の値上りである。

同じ期間に英国の一般物価は17%も上昇している。それと比較して本の価格は異常とも言える安定ぶり、これがはたしてほんものなのか、一時的なものにすぎないのか危ぶまれている。

(The Bookseller、7月23日号より)

——紀伊國屋書店提供——

来 日 外 人 名 簿

- 8月上旬 Mr. M. Bäuml, Sales Manager, & Mr. K. Neger, Sales Manager, Georg Lingenbrink
" Mr. A. W. Elias, Director for Professional Service, BIOSIS
8月下旬 Mr. Sukumar Das, Export Manager, UBS Publishers' Distributors Ltd., India

通 関 統 計

外国貿易概況(大蔵省関税局編、日本関税協会発行)
1977年月5号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和52年5月\$9,548,000 1月以降累計\$46,332,000

昭和51年5月\$6,808,000 1月以降累計\$37,507,000

(注) この統計は、CIF価格で10万円以下の少額貨物は含まない。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。
お手許の Agent List にご記入願います。

丸 善 (株) ☎ 272-7211
de Kock, M. A.—Dynamic Bronchoscopy. With 233 illus.
and 3 tabs. '77. 150 p. (Springer-V.) Ready in Oct.
..... ca ¥ 15,680

Szikla, G., G. Bouvier and others.—Angiography of the
Human Brain Cortex: Atlas of vascular patterns and
stereotactic cortical localization. With 22 illus. and
197 pls. '77. 250 p. (Springer-V.) Ready in Nov.
..... ca ¥ 49,000

(株)ユー・エス・エシアテック・カンパニー

☎ 502-6471

THE METALS SOCIETY (英)

All Books & Journals

1978年度予約購読価格

Metals & Materials	¥ 18,200
Metals Technology	¥ 37,200
Metal Science	¥ 34,200
Ironmaking & Steelmaking	¥ 25,400
International Metals Review	¥ 25,400
Power Metallurgy	¥ 14,000
British Corrosion Journal	¥ 22,800
Steel in USSR	¥ 45,600
World Calendar	¥ 13,600

(All prices inclusive of ASP postage)

ニ ュ ー ス

— お し ら せ —

ブックス・フォ・アジア社は、右記の代表業務を、
本年5月1日より開始いたしました。

MACDONALD & EVANS LTD.

同社は下記の出版社の出版物の販売権を持っております。

CONTINUA PRODUCTIONS LTD., England

THE INSTITUTE OF CHARTERED ACCOUNTANTS, England

LIBRAIRIE DU LIBAN, Beirut, Lebanon

VERLAG PAUL HAUPT BERN, Switzerland

BAUVERLAG, WIESBADEN, FEDERAL REPUBLIC OF GERMANY

第 9 回 洋 書 ま つ り '77

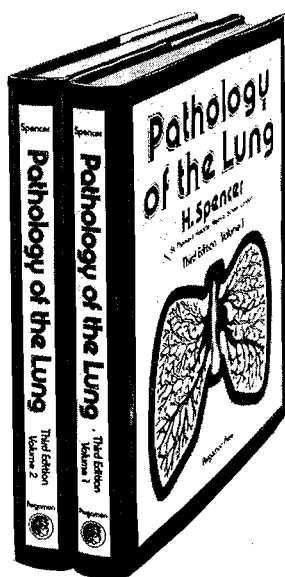
洋書輸入協会主催合同セール

と き 昭和52年10月14日(金)・15日(土)
9:30~18:00

ところ 東 京 古 書 会 館
千代田区神田小川町3-22
電 話 03-293-0161

Third Edition Pathology of the Lung

By H. Spencer



第2版が発行されて以来の9年間に、肺の生理、解剖、病理の分野における研究は著しく進展し、肺疾患の解明も一段と進んでいます。電顕の使用、ホルモンの量的変化を追跡する新しい検査法の導入によって、いくつかの肺疾患の機序がより明らかに理解されるようになっていきます。

今回の改訂は、9年間の研究進歩に照しておこなわれたものです。全章が全面的に書き改められ、内容が一新されています。肺の微小解剖、グラム陰性のバクテリア性肺炎等10数項目以上の新しい項目が追加され、多くの新しい病像図が紹介されています。本書は、前版と同様、肺疾患の病因と発生、発展の機序の究明に最重点をおいて書かれています。

Contents:

Volume I 1) Embryology of the Lung 2) The Anatomy of the Lung 3) Congenital Abnormalities of the Lung, Pulmonary Vessels and Lymphatics 4) Diseases of the Bronchial Tree 5) The Bacterial Pneumonias 6) Pneumonias due to Rickettsiae, Bedsoniae, Viruses and Mycoplasma 7) Chronic Infective Pneumonias 8) The Pulmonary Mycotic Diseases 9) Lung Abscesses 10) Pulmonary Parasitic Diseases 11) The Pneumoconioses and Other Occupational Lung Diseases 12) Radiation Injuries to the Lung and Lipoid Pneumonia 13) Collapse, Bronchial Obstruction and Its Sequelae, Shock Lung and Foreign Bodies in the Lung 14) Emphysema
Volume II 15) Pulmonary Thrombosis, Fibrin Thrombosis, Pulmonary Embolism and Infarction 16) Chronic Pulmonary Hypertension 17) Pulmonary Oedema and Its Complications and the Effects of Some Toxic Gases and Substances on the Lung 18) Degenerative and Metabolic Disorders of the Lung 19) Pulmonary Diseases of Uncertain Aetiology 20) Carcinoma of the Lung 21) Rare Pulmonary Tumours 22) Pulmonary Reticuloses 23) Hamartomas, Blastoma and Teratoma of the Lung 24) Secondary Tumours in the Lung

2 vols., 18 × 24cm. 1,099 pp. 770 figs. 3rd ed. 1977 定価 ¥34,200

Pergamon Press

Headington Hill Hall, Oxford OX3 0BW, England
Fairview Park, Elmsford, N.Y. 10523, U.S.A.

医学書院洋書部 ①①③ 東京・文京・本郷 1-28-36 鳳明ビル ☎東京 (03) 814-5931~3 振替東京1-53233

昭和52年9月 通巻第125号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329